

Title	新たな試みの中で(第9回ピア・スーパービジョン)
Author(s)	宮崎, 和香
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.1, 2012.9 : 26-27
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=3986
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

新たな試みの中で 宮崎和香

アセスメント室の紹介

2010年10月、就労につなげるための材料集めのため、仕事のミスマッチを減らすため、工場の一室を借りてアセスメント室を立ち上げました。当センターのように、アセスメントを専門に行う試みは非常に珍しいそうなので紹介させていただきます。その工場は元々訓練で電機部品の組立を行う場所で、週5日訓練に通う人達が利用しています。普段は電動ドライバーの音やラジオの音、みんなの声が響く中、私たちは作業を行っています。そのような環境で週3～4日、10時から15時、利用期間最長2ヶ月として、利用者さんに通所してもらいMWSと言う作業をやっていきます。

MWS（ムウス）とは、「幕張版ワークサンプル」の頭文字を取ったものです。基本的に1対1



で作業します。「パソコン作業」、「事務作業」、「実務作業」に大別される11種類の作業を行います。作業は、「できる・できないを見る」ためのものではなく、「どの作業の、どのレベルで、またはどういう状況で、ミスが生じるか」を見つけ、その人の障害の特性をこちらが把握し、実際の就労に生かすものです。また、作業の中で、「どうすればミスを予防できるか（補完方法）」を身につけることも目指していきます。

主にMWSを使いながら、病状の確認が必要な人・デイケアや訓練の場に馴染めず、情報が少なくスキルが把握しきれない人・自分を知りたい人などを対象に、体力・病状の確認・対人スキル・理解力・集中力・継続力・ミスのパターン・得意不得意・強さや弱さ・疲労のサインをみていきます。2週間に1度、振り返りがあるのでそれに向けて、日々目標を立てながら自分自身に対する気づきも促していきます。また同じフロアで訓練している人達と休憩や昼休みは一緒に過ごすので対人面での特徴はここで知ることができます。

業務の楽しさや困っている事

基本的に1対1なので、じっくり向き合って過ごすことができます。その人の中にある良さや気持ちも引き出せるよう、あれこれ考えるのも楽しいです。アセス室を利用することにより自分自身の可能性に気づき、希望と自信をもって次のス

テップへ進んでいく姿を見るのが何よりです。

最近MWSだけでなく、他に作業スキルや対人スキルが解るアセスメントはないか模索しています。就労支援センターでアセス室のように実際に作業をやってもらいアセスメントを専門に行う試みは珍しいの、なかなか良いアイデアが出てこないのが難しいところです。試しに掃除のマニュアルを作って利用者さんにやってもらい、協調性を見ようかと思っていますが、まだまだ模索中です。今後これらの課題と共に日々の業務に励みたいと思います。

（みやざき・わか 障がい者就労支援センター勤務・精神保健福祉士 2002年度聖学院大学人間福祉学科卒業）